Vol.10
2013

稲門三島

稲門祭に参加して

三島稲門会
会長　**森田　眞覧**

2012年のホームカミングデー稲門祭は10月21日建学百三十年目の当日行われた。昭和38年商学部卒の私にとって50年目の節目の年であった。

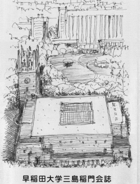
年に数回の母校訪問時、いつもは東京駅から地下鉄東西線で早稲田に向かうのだが、今回は何十年か振りに高田馬場から歩くことにした。早大正門行きのバスを横目に母校まで約30分、追憶の道筋を懐古気分に浸りつつ散策の歩みを進める。だが、50年の月日はいかにも長い。新改築の建物が目立ち、古書店は減り、賑やかな飲食店が増えていた。記憶を甦えらせるよすがは少なく、唯一の喜びは早稲田松竹の健在であった。この劇場でどれほど映画を楽しんだことか。だが、思い出は幽に、耽る間もなく37号館記念会堂に着いてしまった。

ホームカミングデーの式典は「紺碧の空」の合唱から始り、登壇者入場、総長式辞、数々の挨拶、韓国高麗大学校友会長への名誉博士号授与などの後、校歌斉唱で90分間の郷愁のセレモニーは終わった。

今回最も印象に残ったのは参加者代表、卒業後45年という映画監督の小栗康平氏のスピーチである。入学式卒業式に出ず、校歌も冒頭の「都の西北」という所しか歌えぬ自分が代表とは面映ゆいと断りながら話は進められた。群馬県の文具商の家に生まれ、親の意思に反しながら映画作りを志望して第二文学部演劇学科に入学、その後在学中に早逝された父上に代り経営に携わり、主に東京での仕入業務をしながら学業を続け映画創作を学んだという。同期の女優吉永小百合さんとすれ違った甘い思い出など、早稲田で良かったと穏やかな口調で語られていた。

小栗監督は「泥の河」、「死の棘」など欧州でも評価された名作を生んだ。

【株式会社森田商店代表取締役会長・65商研修】



早稲田大学三島稲門会誌

発行者：早稲田大学校友会静岡県支部三島稲門会 会長 森田 眞覧
発行所：早稲田大学三島稲門会「稲門三島」編集委員会
〒411-0035 三島市大宮町2-16-4 青木興業(株)内
TEL.055-916-3101 FAX.055-916-3071
E-mail：kazu@aokico.jp
印刷所：ＮＡＰＯ 株式会社

代議員会に参加して

三島稲門会 幹事長　**小島　健昭**

このたび早稲田大学校友会の代議員を拝命することになりました（本来であれば私のような者より適役の方がたくさんいらっしゃいますが、その辺りの事情は割愛させて頂きます）。三島からは井出雅光会計幹事と私の2名です。

そもそも代議員ってなんだ、というのが私の認識でありましたが、森田会長から、代議員会に出席して情報を持ち帰る役目だ、とご説明いただき、青木事務局長にも手伝っていただいてよいとのご許可もあり、お引き受けすることになりました。

代議員会は年2回、3月と10月に、大隈講堂にて開催されます。今年に限っては、新任の代議員の顔合わせの意味で6月に臨時代議員会が開催されました。私は6月と10月の2回、出席してきました。

代議員の定数は1，400名以内です。校友会本部幹事、都道府県支部や年次稲門会の事務局長

または幹事長、など、さまざまな形で選任されますが、私は各都道府県選出（定員777名）として拝命することになります。各都道府県といっても人口などに比例しているわけではなく、活動が盛んな所ほど代議員も多いということのようです。例えば、神奈川県は99名、埼玉県は93名と、東京近辺はさすがに多い割り振りですが、同じ都会でも大阪府は15名、愛知県は24名と、思ったほど多くはありません。我が静岡県は22名ですので、定員が多い方のくちです。

日本全国から集まって代議員会が開かれるわけで、大隈講堂が満席になります。なかなかに盛大な会であります。

（以下、続きは裏面投稿のページ「話勢多」へ）

投稿のページ

話勢多 WASEDA

表紙面「代議員会に参加して」から続き）

議事は、大学からの報告が主になりますが、メインはむしろ、最後の質問タイムといえるのではないでしょうか。さすがに熱心な人が集まっているだけあって、上っ面な質問ではありません。

２回の代議員会で印象に残ったのは、大学からの「Ｗａｓｅｄａ Ｖｉｓｉｏｎ １５０」についての質問、というか反論です。

質問者は「あまりに形式的でお役所的な内容ではないか。第一、報告ではなく校友会からの意見、アイディアを先に募るべきではないのか」ということを、歯に衣着せぬ厳しい口調で詰め寄りました。総長が回答に立ちましたが、説得力のある話はできませんでした。「１５０」については今後の練り直しが期待されます。

会議の後は大隈ガーデンハウスにて1時間ほどの懇親会がありました。ここが他の代議員と情報交換をする場になるわけですが、あちこちに応援部出身者がいることに驚きました。まあ大学が好きだから応援部などという前時代的な活動に明け暮れていた者たちですから、校友会に熱心なのもあたりまえではあります。

代議員会に出席すると、卒業してからの交友のネットワークの緊密さというものが実感されます。そこでの情報を上手に三島稲門会につなげていきたいと思います。

【幹事長・小島会計事務所所長・85年法卒】

大相撲観戦

菊池　信廣

2012年9月22日は大相撲9月場所14日目でした。友人の招待で両国国技館のマス席で幕下の取り組みから打ち止めまで観戦させてもらいました。ご存じの通り、日馬富士が全勝優勝し、横綱昇進を決めた場所です。

テレビでは毎場所観戦しているのですが、国技館館内の雰囲気は熱気と歓声独特のものでテレビでは味わえません。私を含め4人の仲間が招待されたのですが、A氏は「8勝7敗と7勝8敗では天と地の差だなあ」としみじみと1勝の重さに感じ入っていたのが印象的でした。確か満員大入りの垂れ幕が下がっていたと思います。又、白鵬の人気は懸賞金の数の多さで分かります。群を抜いています。先々場所優勝した旭天鵬も好調で、40歳近い年齢にもかかわらず全力を尽くす姿に感動しました。

国技館の観戦後、友人の案内で九重部屋に行き、元横綱千代の富士の九重親方を囲んでのちゃんこ料理を楽しませてもらいました。相撲部屋を訪れたのは初めてです。若い力士の給仕で料理に舌鼓を打ち帰ってきました。

余談ですが、早稲田大学出身の力士にむかし笠置山がいたことはご存知の方もいると思いますが、現在久しぶりに十両にスピード出世した人がいるようです。頑張ってほしいものです。

【弁護士・菊池法律事務所所長・61年法卒】

九重親方と九重部屋で（前列右端筆者）

青春かながわ校歌祭

田口　義昌

私の出身高校は神奈川県藤沢市の神奈川県立湘南高等学校であるが、7年ほど前から県立高校卒業生有志が集まって、「青春かながわ校歌祭」という催しが始まっていた。私がそれを知ったのは去年の初め頃だったが、あいにく所用があってこの時は参加できなかった。

今年平成24年は、私の卒業年次（昭和37年）が当番ということで、同じクラスだった建築設計事務所長のH君が実行委員を勤めてかなりの時間を割いてくれて、11月18日（日）に母校で合唱部現役の生徒たちと一緒の練習会が開かれ、これに参加したが、なかなか楽しいものであった。

本番の校歌祭は次の日曜日12月25日に横浜市みなとみらい線日本大通駅近くにある神奈川芸術劇場で開かれた。我が校の出番は午後二番の1時からだったが、どうせ横浜まで行くなら最初からにしようと思い11時前に到着し、開会ファンファーレを聴いた。

その後、県立高卒の県議会議員数名みなさんの挨拶があったが、神奈川県教育委員会の協力を得るのに皆さんだいぶ尽力されたとのことであった。

しかしどうも校歌というのはどれも似たようなものが多いと思いつつ午前中を過ごし午後一番の出番を待っていたのだが、どういう訳か、登壇案内のプラカード表示を見過ごしてしまい、結局合唱には参加で出来ずじまいという間抜けな結果となってしまった。

母校校歌と応援歌の合唱は、卒業生82名、現役応援団5名、現役合唱部22名、教職員2名の百十一名参加だったそうだ。終了後近くの中華街で懇親会があって新任の校長先生にもご参加頂けた。

経済人類学者・栗本慎一郎さんの著書に、なんでも加齢とともに昔が懐かしくなってくるのは、脳の微小梗塞が一因かも知れないと書いてあったが、そうであったとしても、こうして参加できたのはそこそこの健康と時間等の余裕がある御蔭であることに、感謝すべきであろう。また来年も出ようという意欲が大事だ。

【副会長・田口通信工業代表取締役・67政経卒】

青春かながわ校歌祭　ステージ風景

妻を送る

井出　雅光

今年、2012年は私にとって全く予想もしていないことが起きてしまった年でした。

昨年10月、妻の目の白目の色がおかしいと、妻がやっている学習教室の生徒が言ったことがきっかけで、病院に行くと、そのまま入院になってしまった。

最初は、胆嚢の炎症だろうということであったが、検査を進めると、胆管がんということであった。手術は肝臓の六割強を切除し、胆管、胆嚢も切除するという技術的にも難しいものとなった。

入院して1カ月後に手術は行われた。七時間以上かかる手術が終って執刀医に、盆の上に切除した肝臓、胆嚢を見せられ、子供らと4人で説明を受けた。肝臓は思ったよ

り小さく見えた。とりあえず手術は成功であったが、ガン細胞をすべて取ったわけではなかった。

後日、妻のいないところで質問すると、ステージⅣということであった。

この一、二年で何かあるとは思わなかったが、やはりという気持ちになった。それまでインターネットで色々調べていたので覚悟はしていたが、それでも何とかなるのではないかと思っていた。本人は手術が終わりいたって元気であった。

私は一緒に旅行に行けるうちに行っておいた方がいいと思い、2月に退院してから2カ月後のゴールデンウイークの前半の休みを使って福島に住む次男夫婦のところを訪ね、三春の滝桜やその他の桜を訪ね、磐梯熱海温泉で次男夫婦と1泊した。

この時からすでに具合が悪かったのかもしれないが、旅行から帰って10日ほどして、16年前に手術した心臓の人工弁が不具合を起こしてしまった。救急車で運ばれ、緊急手術となった。手術そのものは成功であったが、その前の手術で肝臓を大きく切除したことが原因かどうかわからないが、1週間後、担当医から回復は難しいと言われてしまった。

6月10日、午前9時30分、彼女は逝ってしまった。偶々子どもたちが集まってきていた。前日の夜には、会話（口でできないので私たちの手の平へ指でカナを書きながら）をしていたので、まさかとの気持ちが強かった。

通夜、葬儀には七百人を超える人が来てくれた。

【会計幹事・三光商会社長・72理工卒】

早大受験小話

土屋　研二

「早稲田」「ワセダ」「WASEDA」。

この言葉の持つその何とも心地よい響きは、卒業して30年経った今も私の心をとらえております。私が具体的に早稲田受験を意識したのは高校三年の夏休みです。それまで属していたフォークソング同好会を退部し、早稲田大学に近い印度大使館の裏手あたりにある「新早稲田館」という学生寮に寝泊まりし、「早稲田予備校」の夏季講習を1ヶ月間受けました。

学生寮の同部屋に大分県の高校生がおりまして、その彼と1ヶ月間生活をともにしながら勉学に励んだわけです。

初めての東京生活は何もかもが新鮮で寮の食事もよかったし、同部屋の彼ともけんかもせず、いろんな話もしたし、そのことだけで私は満足していました。

翌年春、受験に失敗した私は、「早稲田予備校」の講習を受けるため、その校舎をくぐったら、偶然あの同部屋だった彼がおりました。彼は予備校の玄関近くにある受験の参考書を一生懸命読んでおりました。その姿から想像すると私と同じように受験が失敗したのかなと思いながら声をかけたら、何と現役で政経と法学部に合格したと言っておりました。そして法学部に入学したと言っておりました。

前年の早稲田予備校の夏季講習時代、私は予備校の試験では最下位近くをウロウロしていたのに比べ、彼はそれまでも真ん中から上位近くを頑張って維持していました。それにしても彼の合格はびっくりで、それでは何で今あんなに受験の参考書を読んでいたんだろう、という疑問はもうどうでもよくなりました。

翌年、政経に合格した私は、学生会館でまたまたその彼に偶然会いました。「僕も受かっちゃったよ」と彼に言いました。そしてどちらからともなく大笑いしました。それきり彼とはあっておりません。「早稲田」に入りたい人はたくさんいたし、合格できた私は幸運でした。

この幸運に報いる努力をしたいと思っております。【スルガキャピタル・82政経卒】

カロンの舟

小西　政司

２０１１年の秋、卒業45年のHC（ホームカミングデー）の日に同期4人が再会した。

東日本大震災と恐れていた東電福島第一原発事故の先行き不安な混乱を目にして、卒業50年のHCでの再会を約束していた同期5人のうち、連絡の取れた4人が急遽集合したのである。

大隈庭園の野外パーティの喧騒を離れ、隣接のホテルで4人は旧交を温め合った。その中で私と同じ商学部の網島盛昭君は最も晩婚であったが、台湾の最高峰新高山（玉山）の麓、阿里山の茶園主の娘と密かに結婚していて、「残りものに福がある」と妻にうらやましがられた。

大学3年の早稲田祭が終了すると、同期5人は揃ってマンモスサークルの広告研究会を脱会し、アドエフ（アドバタイジング・フェローズ）という広告研究グループを結成した。お互いの連絡方法は学生会館の伝言板、緊急連絡は郵便はがきであった。

5人の中で、もっとも遠距離通学をしていた網島君は横須賀に帰らず、新宿駅から徒歩20分（最寄駅小田急線参宮橋）の私の下宿にしばしば転がり込んだ。そしていつしか、MJQやコルトレーンを聴きながら昼間語り合った「ゆたかな社会」「個人的な体験」などの論評の延長戦、はたまたアートシアターやレジスタンス映画談義をするための彼の定宿になっていた。

２０１２年の秋、その網島君の奥さんから、初めてたどたどしい電話があった。網島君の突然の訃報と浅草田原町桃林寺での葬儀を数人に連絡した。

参列したのはアドエフのS君（文学部）とO君（網島君と横須賀高校と早稲田の商学部で同期であり、学生時代に紹介され旧知であった）、そしてO君が連れてきた中学高校で網島君と同期2人が加わって5人であった。

昨年、S君がまとめた本人を除くアドエフ4人の学生時代を彷彿させる人物評の紙片を出棺の際、私はとっさに網島君の遺骸の胸の花の下に忍び込ませた。

葬儀の後、隅田川のほとりの神谷バーまで東京スカイツリーを見上げながらぞろぞろ歩いた。デンキブランで献杯し、横須賀の中学高校、早稲田やアドエフでの網島君の行状をそれぞれが明かした。

帰りの新幹線からメールを打つと、美術手帖の編集長を務めたことのあるS君から「されど死ぬのはいつも他人なり、〈献杯後デンキブランの酔い早し〉〈寡黙なりカロンの舟に謡をのせて〉」、筑摩書房に在籍していたO君からは句仲間を送った折の一句〈西方に渡海する友をり冬ぬくし〉とメールが返ってきた。

1年前まで健在であった稲門の同期が鬼の録となることまで、誰も予想していなかった。【副会長・アール・イー・プランニング代表・67年商卒】

右から筆者、O君、一人おいてS君

2012年度の行事

■三島稲門会2012年度の活動■

2月3日　三島稲門会2012年度総会・新年会（みしまプラザホテル）1部　講演会（卓話）高橋正三氏、2部　懇親会
2月25日　三島三田会総会（詳細不明）
4月14日　校友会静岡県支部役員会（静岡駅南口東海軒会館）森田会長、田口副会長、河辺顧問が出席
4月28日　沼津稲門会総会（ホテル沼津キャッスル）4名出席
6月2日　静岡県稲門祭2012（清水稲門会主管　マナーハウス・エリザベート（静岡市清水区）基調講演早稲田・大学総長鎌田薫、記念講演・早稲田大学教授那須政玄、6名出席

鎌田総長（中央）を囲んで

7月30日　ナレオパーティ（東京グランドプリンスホテル新高輪）
8月10日　三島稲門会新人歓迎会　シネマサロン「ザ・仲次郎」早稲田大学校友会を通じ三島稲門会管内の在学生に招待状を送付、参加学生4名、新規参加3名、既会員22名

新入生・現役学生歓迎会

10月5日　代議員会　早稲田大学本部　出席小島幹事長
10月9日　三島稲門会役員会　シネマサロン「ザ・仲次郎」役員改選案、忘年会、来年度新年会総会の日程、内容等検討　出席11名
11月30日　三島稲門会忘年会　割烹「登喜和」出席23名
2013年
2月1日　三島稲門会2013年度総会・講演会・新年会（みしまプラザホテル）

三島稲門会総会12

■三島稲門会総会2012■

平成24年2月3日、17時30分からみしまプラザホテルにて、三島稲門会総会が行われた。

　総会は、小島健昭（昭60法）幹事長司会により森田眞覧（昭40商研修）会長挨拶、会務報告は幹事長が、会計報告は井出雅光（昭47理工）会計幹事が務め、主なものでは被災地のための震災支援金10万円の支出が報告された。

　18時から最長老の高橋正三校友（昭10商卒）による卓話「我が町・長泉」があった。長泉町は鎌田総長の出身地でもあるが、この地で通算5期町長を務められたことから、町の歴史と先輩（本年99歳）の生きざまがよく理解できた。

　引き続き懇親会が青木代司一（昭54理工）事務局長の司会、河辺和年（前会長・昭35理工）顧問の乾杯で行われた。懇親会来賓として沼津稲門会（4名）、三島三田会（2名）の参加があった。

（総勢34名）参加者・青木代司一、足立光弘、新井祐二、井坂武雄、石井登喜男、井出雅光、岩村行正、榎本昭雄、小野惇一、河辺和年、菊池信廣、木村幹雄、小島健昭、小西政司、鹿戸周、杉澤正人、高野幸雄、高橋正三、高橋通方、田口義昌、土屋研二、土屋比都司、長倉春生、永田廣幸、益原章生、森田眞覧、柳田重雄、渡辺暢子（校友のみ五十音順）

（「早稲田学報」8月号より転載）

ホームカミングデー

■2013年度ホームカミングデー■

ご案内対象の卒業年次（予定）
①（卒業50周年目）1964年（昭和39）
②（卒業45周年目）1969年（昭和44）
③（卒業35周年目）1979年（昭和54）
④（卒業25周年目）1989年（平成元）
⑤（卒業15周年目）1999年（平成11）
⑥①～⑤と同期入学で卒業年の異る方
⑦①～⑤の年および今年推薦校友になられた方

＊開催は2013年10月20日（日）の予定で、詳細は8月上旬に大学校友のウェブサイトに掲載の予定。（早稲田大学校友会より）

三島稲門会役員

●顧問＝萩原　健・（51理工）・中川和郎（56文）・八木　傳（56教育）・足立光弘（58商）・河辺　和年（60理工）●会長＝森田眞覧（65商研）●副会長＝益原章生（61政経）・田口義昌（67政経）・小西政司（67商）●幹事長＝小島健昭（85法）●会計幹事＝井出雅光（72理工）●幹事＝堀江辰男（63教育）・榎本昭雄（65理工）・木村幹雄（66商）・土屋比都司（68商）・長倉春生（69教育）・杉澤正人（80文）・渡邉明彦（04社会）・永田廣幸（06教育研）●事務局長＝青木代司一（79理工）・事務局次長＝飯島 映（01理工研）

事務局便り

■年会費納入のお願い■本会の2013年度年会費を銀行振り込みでご送金下さるようお願い申し上げます。

・年会費　3，000円
・振込先　静岡銀行　中島支店
・口　座　普通0450431
・宛　先　早稲田大学三島校友会
会計　井出　雅光

編集後記

悪戦苦闘の末、10号の編集が終わりました。森田会長から会報『稲門三島』編集のご指名をいただき、表紙デザイン並びに割り付け作業では河辺前会長の絶大なるご協力のもと、箱根駅伝の復路のごとく、6号～10号まで5回何とかタスキをつなぎました。

　次の11号からは若手にタスキを渡しますが、三島稲門会の会員相互の情報誌としてさらにご活用いただければ幸いです。締切日までに原稿が集まらなければ、発刊できないわけです。このことは、校友各位のご協力が前提となっていますので今後もよろしくお願いします。

　10号におきましても、ご投稿のご無理をお願いした各位にも改めて、心より感謝申し上げます。特に、井出雅光会計幹事には、ご不幸も知らず誠にぶしつけなお願いをしましたが、ご執筆ありがとうございました。合掌。また、河辺前会長には体調のすぐれない中のご協力まことにありがとうございました。（K）

■『稲門三島』編集委員会■委員長＝小西政司（67商）・委員＝河辺和年（60理工）・飯島 映（01理工研）